

令和7年度小学生すくすくウォッチの結果概要

大阪府教育庁市町村教育室小中学校課

- 目的：子どもたち一人ひとりが自らの強みを知り、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力、問題発見・解決能力等を向上させ、これからの社会を生き抜く力を着実につける。
- 実施日：令和7年4月16日～24日 ※期間内で学校が実施日を決定
- 対象：小学校、義務教育学校前期課程及び支援学校小学部の第5・6学年
- 実施児童数：5年生 65,527人
6年生 65,229人 合計：130,756人
- 内容：5年生 国語、算数、理科、わくわく問題（教科横断型問題）、アンケート
6年生 わくわく問題（教科横断型問題）、アンケート
- 提供資料：「ウォッチシート（個人票）」
【記載内容】
 - ・アンケート結果からわかる児童一人ひとりのよいところ
 - ・各教科とわくわく問題（教科横断型問題）の解答状況から見られる、児童一人ひとりのよいところ
 - ・各教科とわくわく問題（教科横断型問題）のすべての問題について、児童一人ひとりの正答状況とそれに合わせたアドバイス

【国語】 小学校5年実施

分類		区分	平均正答率 (%)
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	72.4
		(2) 情報の扱い方に関する事項	68.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	21.9
	思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	－
		書くこと 読むこと	69.1 －
評価の観点	知識・技能		69.2
	思考・判断・表現		69.1

文中の助詞から正しい使われ方をしているものを選ぶことや、文を正しく理解し、指示語が指示する内容を捉えることはよくできていた。

一方、文の中における主語と述語の関係に注意して述語の部分の正しく書くことや、故事成語の意味についての知識に課題が見られた。

【これからの学習に向けたアドバイス】

★文や文章を読むときや書くときは、【主語】「誰が（何が）」「誰は（何は）」【述語】「どうする」「どんなだ」「なんだ」に気をつけましょう。主語と述語を適切に使うことで、思いや考えが読み手に伝わりやすくなります。

★読書などを通してたくさんの言葉に出合い、分からない言葉があれば人にきいたり辞書で調べたりして、使える言葉を増やしましょう。

【わくわく問題（教科横断型問題）】小学校5・6年実施

文章や図・表・グラフ・ホームページ等を読んで、自分の考えを書く問題。答えは1つではないものもある。

分類		区分	平均正答率 (%)	
			R7 5・6年	R6 5・6年
観点	A	図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる。	74.4	65.6
	B	図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える。	70.3	56.5
	C	図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。	61.9	68.8
	D	図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える。	72.3	74.3
	E	興味・関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝える。	61.9	85.3
出題内容	問題をとらえる	文章から読み取る	73.6	66.5
		会話から読み取る	61.0	56.8
		図や表から読み取る	73.8	60.2
	伝える	資料の情報を整理して伝える	71.9	61.7
		自身で考えたことを伝える	72.3	74.3
		理由や根拠を明確にして伝える	73.9	68.8

良好

- 資料の内容を把握し、課題を解決するための提案を、資料の内容をもとに書くことはよくできていた。

課題

- 複数の情報が、どのような考えによって整理、分類されたかを読み取ることや、資料の説明文をもとに表の項目に合うように整理、分類することに課題が見られた。

【これからの学習に向けたアドバイス】

- ★複数の情報を整理するときは、書かれている内容や数値などを比べ、共通することやちがっていることを見つけ情報の特徴をとらえましょう。
- ★調べて分かったことや見つけたことをもとに、図や表を使うなどして仲間分けしてみましょう。一度仲間分けしたことをちがった視点で改めて仲間分けすると、今までに無かった特徴を見つけることができることもあります。
- ★自分以外の人が考えた分析や、つくった資料を読み取る時は、つくった人の意図を考えたり、自分の考えと比べ、ちがいや疑問に思った点がないか考えてみましょう。

【算数】 小学校5年実施

分類		区分	平均正答率 (%)
学習指導要領の領域等	数と計算		72.1
	図形		75.6
	測定／変化と関係		54.8
	データの活用		63.0
評価の観点	知識・技能		66.1
	思考・判断・表現		69.8

円の直径について理解し、画用紙にいくつ円をかけるかを計算することはよくできていた。

一方、組み立てたときに直方体の箱にならない展開図を選び、その理由を説明することや、2つの棒グラフが表すことを正しく読み取ることに課題が見られた。

【これからの学習に向けたアドバイス】

★算数で解き方や考え方を説明するときは、うまくいく方法だけでなく、うまくいかない方法についても理由を示して説明してみましょう。

★グラフに何が示されているのか、タイトルや縦の軸や横の軸の項目、1めもりが表す大きさなどを見て考えましょう。また、グラフが複数あるときは、同じところやちがうところを探するなどしながら特徴をつかんでみましょう。

【理科】 小学校5年実施

分類		区分	平均正答率 (%)
学習指導要領の領域等	エネルギー		56.8
	粒子		70.1
	生命		69.2
	地球		51.1
評価の観点	知識・技能		62.1
	思考・判断・表現		57.6

暖かい空気は上方へ流れるという性質から、火事で避難するときに取るべき姿勢を考えることは理解できていた。

一方、日陰の位置の変化や乾電池のつなぎ方についての知識や理解、土の粒の大きさから水たまりができない理由を説明することなど、身近な生活に結びつく問題に課題が見られた。

【これからの学習に向けたアドバイス】

★「直列つなぎ」や「並列つなぎ」など理科で学習した言葉は、図やイラストと結び付けて考えたり説明したりしましょう。

★ふだんの生活の中で見たり感じたりしたことを理科で学習した内容とつなげて考えてみましょう。「なぜ？」と思ったことについて、その理由を理科の知識を使って調べてみましょう。

令和7年度小学生すくすくウォッチの結果概要 ～アンケート～

「未来に向かう力」と「好奇心」について

子どもの将来には、テスト等で測ることのできる「学力」の他に、非認知能力が大事です。非認知能力について、大阪府教育庁では、「目標に向かって頑張る力」、「人と関わる力」、「気持ちをコントロールする力」の3つとし「未来に向かう力」（※）として定義しました。また、新たな知識や経験を探究する原動力となる「好奇心」も大事と考え、アンケートによりその状況もたずねました。

大阪の子どもたちの全体の傾向として、「未来に向かう力」のうち、「人と関わる力」が他の力に比べて高いという結果でした。一方、「目標に向かって頑張る力」のうちの「ぶれない心」や、「気持ちをコントロールする力」のうちの「落ち着き」が、他の観点に比べると、低い傾向であるという結果でした。

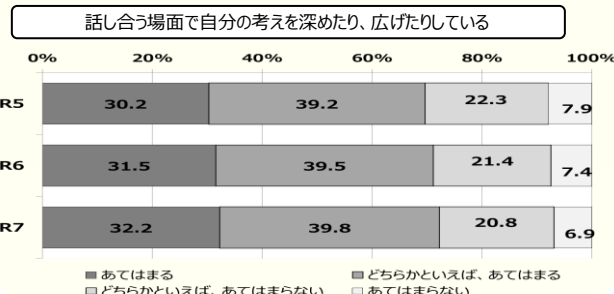
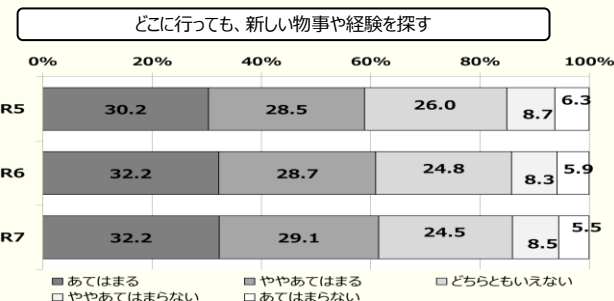
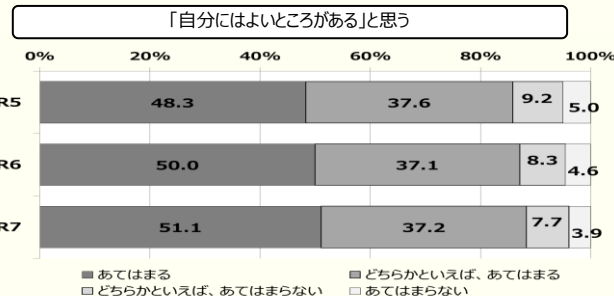
また、「好奇心」のうち、「いろいろなことへの興味や関心」は他の観点に比べると、高い結果でした。

「参考」(※)『乳幼児期に育みたい！未来に向かう力』リーフレット ダウンロードページ
https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/5937/hi-ninchi-web-bara_part2.pdf

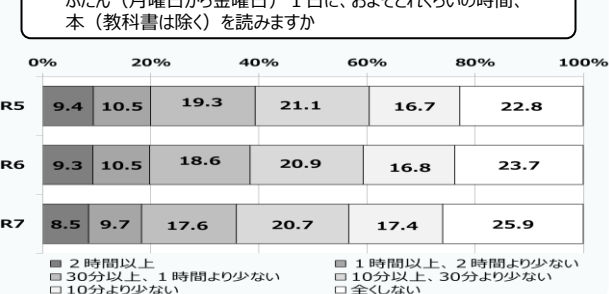
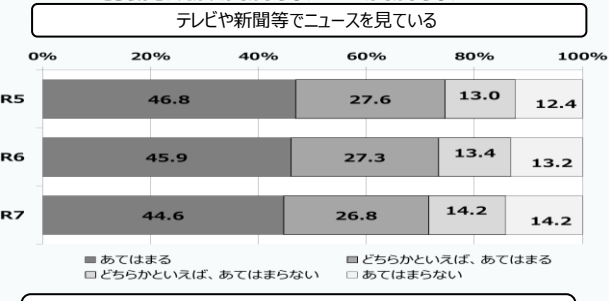
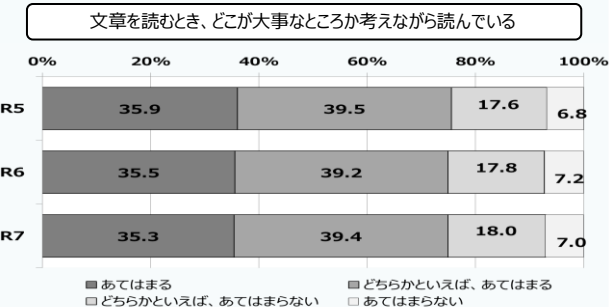
児童アンケート（5・6年生）令和5年度から3年間の経年比較

※その他・無回答の数値は示していません

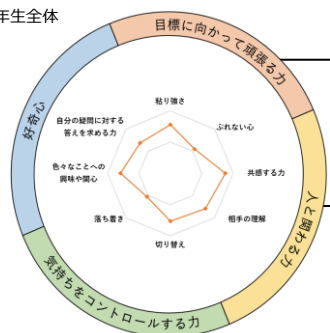
〔肯定的な回答の割合が増加した項目〕



〔課題と考えられる項目〕



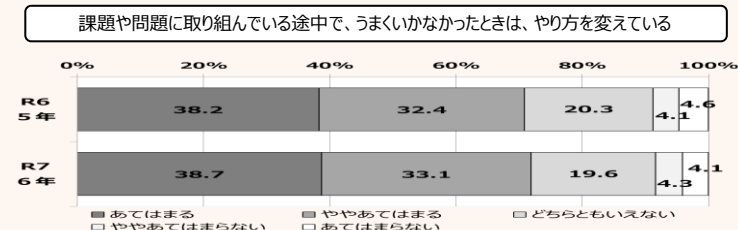
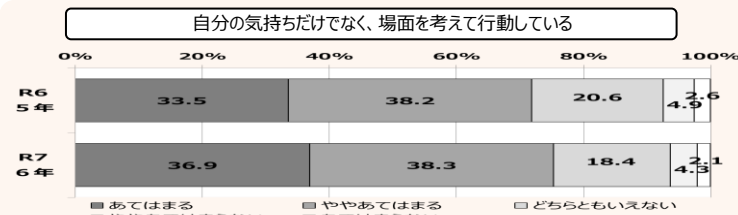
5・6年生全体



未来に向かう力

今年度（6年生時）と昨年度（5年生時）との同一集団の経年比較

※その他・無回答の数値は示していません



児童アンケートから、「自分にはよいところがある」や「どこに行っても、新しい物事や経験を探す」と思う子どもの割合がこの3年間で増えてきていることがわかりました。また、「話し合う場面で自分の考えを深めたり、広げたりしている」と感じている子どもの割合も増加し続けています。自分のよいところを自分自身が認め、また、新しいことに興味をもち、人との関わりの中で学びを深めたり、広げたりしている姿が見られます。

一方、「文章を読むとき、どこが大事どころか考えながら読んでいます」の質問については、この3年間大きな変化がみられません。文章を読むときは、文章全体の流れやつながりを把握し、より正確に理解する力を身につけるために、くり返し使われている語句に注目したり、筆者の伝えたいことは何なのかを意識したりして読んでみましょう。また、テレビや新聞でニュースを見ていない児童や、ふだん1日に本を全く読まない児童の割合が増加し続けています。テレビや新聞等でニュースを見たり本を読んだりすることは、世の中のような情報を得られるだけでなく、多様な表現に出会う機会にもなります。書かれていることを正確に読み取ることに加え、読み取った内容に対して自分の考えを適切に表現することを通じて、ことばで表現する力を伸ばすことにつなげましょう。

今年度の6年生の回答を昨年度5年生だった時の回答と比べると、「自分の気持ちだけでなく、場面を考えて行動している」や「課題や問題に取り組んでいる途中で、うまくいかなかったときは、やり方を変えている」という回答の割合が増加しています。状況に応じて考えて行動する姿や、目的に向かってねばり強く物事に取り組もうとする姿がみられます。課題に取り組む際は、まずは、今までの経験などをもとに、自分がどうすればよいか考えましょう。加えて、他の人とどう協力すればうまくいかに考えることで、さらに解決する力がつくでしょう。

- 今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。
- 小学生すくすくウォッチの問題および解答については、以下のURLよりご覧になれます。
- 令和7年度小学生すくすくウォッチ
https://www.pref.osaka.lg.jp/o180080/shochugakko/sukusuku/r7_monndai.html